

簡単！「小テスト」を作成・活用してみませんか②

～小学校の小テスト（観察・資料活用の技能）～

記述式テストで見られる解答欄の多くは、論述するスペースが設けてあるだけのものです。このような解答欄の場合は、子どもが「何を、どのように」書けばよいのかが分からず、解答を論述することが難しくなります。

そこで、今回は、論述の型を示し、それに従って解答を記述させる「アウトライン型式」の解答欄を設けた小テストの作成例を紹介します。

〈解答欄をアウトライン型式にした「小テスト」例〉

小学5年「庄内平野の米づくり」における小テストの例です。写真の季節はいつなのか、資料から読み取った事柄を根拠に、自分の考えを「アウトライン型式」で論述させるようにしています。

【問題】 資料1「庄内平野の米づくりの様子」の写真の季節はいつですか。
資料1「庄内平野の米づくりの様子」と資料2「庄内平野の米づくりごよみ」から読み取ったことがらをもとに、あなたの考えを解答らんに書きましょう。



資料1「庄内平野の米づくりの様子」(提供「J」A全農山形)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
種もみを選ぶ 共同作業の計画づくり	たい肥をまく 田おこし	なえを育てる 代かき 田植え	水の管理 じよ草どいをまく 稲の生長を調べる	みぞをほる 農薬をまく		穂が出る 稲かりの計画づくり	もみすり かんそう 稲かり だっこく たい肥づくり

資料2「庄内平野の米づくりごよみ」(筆者作成)

〔解答らん〕

資料1の写真の季節は（ ）だと考えます。
理由は、次の二つです。
資料1の写真を見ると（ ）をしている様子が分かります。
資料2を見ると（ ）と書いてあります。
以上のことから、写真の季節は（ ）と考えます。

解答欄をアウトライン型式にすることで、次の二つの効果が期待できます。

●効果１・・・ **子どもの「書く技能」を高めることができる**

アウトライン型式で解答を記述させると、論理的な文章の「書き方」を学ぶことになり、子どもの「書く技能」を高めることにつながります。

●効果２・・・ **教師にとって、評価がしやすくなる**

子どもたちが、それぞれ自由な文型で解答を記述したテストは、評価するのに時間がかかりますが、アウトラインに従って解答を記述させると、子どもたちの文型が同じになるので評価がしやすくなります。

前頁の小テストの解答欄をアウトラインで見ると、最初と最後の段は「結論」です。また、３段目と４段目は、資料１、資料２それぞれの資料から、問題解決に必要な情報を読み取ることができるかの評価です。

解答として、例えば、

資料１の写真の季節は（ 春 ）だと考えます。
理由は、次の二つです。
資料１の写真を見る（ 田に水を入れて平らにならす「代かき」 ）をしている様子が分かります。
資料２を見ると（ 「４月」のところに「代かき」 ）と書いてあります。
以上のことから、写真の季節は（ 春 ）と考えます。

というように書くことができれば十分満足できる評価となります。



記述式の解答欄を「アウトライン型式」にすることで、「評価」という目的に加え、子どもの「書く技能」を高めることができます。